

民有地等における 国の自然共生サイト認定取得について





自然共生サイトとは？

民間の取組等によって生物多様性の保全が図られているとして有識者の審査を経て環境大臣が認定した区域。

令和4年12月の生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）で採択された、2030年までに陸と海のそれぞれ30%以上を保全する新たな目標（30by30目標）の達成のために、環境省が令和5年4月から当該認定制度を開始した。

1 令和6年度民有地等の認定取得促進モデル事業について



令和5年度

✓市有地2か所の認定を取得（支援ノウハウの習得につなげる）



▲「仙台ふるさとの木再生プロジェクト」の
海岸防災林（ミサゴ、生きもの観察会）



▲仙台市水道局青下水源涵養林
（カワセミ、ミヤマクワガタ）



令和6年度

✓多様な主体による認定取得を促進するためモデル事業を実施。

令和6年度モデル事業の概要

- ✓ 認定取得を目指す企業や個人等を公募
企業・大学・任意団体・個人から計5者の応募

- ✓ 全5者に対し、希望に応じて以下を支援
 - ① 動植物調査の実施（専門事業者委託）
 - ② 活動計画作成の助言
 - ③ モニタリング計画作成の助言
 - ④ 申請書作成の助言



2者が認定を取得
(公有地以外は市内初)





① サイト名：遠藤環境農園



▲メダカの放流



▲仙台メダカ米



▲瓦礫を除去した後の田んぼ



▲令和6年度の田植え



▲自生するオモダカ、ミズアオイ

申請者	個人
所在地(面積)	仙台市宮城野区岡田ほか (計 1.5 ha)
サイト概要	絶滅危惧種のメダカが生息する田園地域で、東日本大震災により絶滅しかけたメダカを保護増殖させるため、化学肥料を使わない農法へ切り替え、メダカ以外の様々な種も生息する環境へ復活。 収穫したお米を消費者へ販売する際に、生き物保全の重要性を広報。
モデル事業支援	①動植物調査 ②活動計画 ③モニタリング計画 ④申請書



②サイト名：宮城大学キャンパス



▲坪沼農場

▲太白キャンパス



▲学生によるスギ人工林の間伐



▲ヤホシホソマダラ

▲自生するヒメシャガ

申請者名	大学法人宮城大学
所在地（面積）	仙台市太白区旗立ほか（計 64 ha。認定は市外を含む）
サイト概要	準絶滅危惧種ヒメシャガなどの希少な植生を観察できるスギ人工林や学内農場などの多様な自然環境を有し、大学の講義や演習での活用や、地域の子どもたちの農作業体験といった地域貢献活動、行政や企業等と連携した森林調査など多様な活動を実施。
モデル事業	①動植物調査 ②活動計画 ③モニタリング計画 ④申請書

3 その他の被支援者の状況等と今後の取り組みについて



その他の被支援者の状況等

被支援者	申請地概要	申請	結果
企業	企業敷地内のビオトープ	前期	認定見送り
任意団体	協同農地・ビオトープ	後期	申請件数超過により 次年度に審査持ち越し※
個人	個人宅敷地内のビオトープ		

※ご希望に応じて引き続き伴走支援予定

また、動植物の同定や調査方法などの専門的知識や調査物品の不足など、被支援者のニーズ（促進にあたっての課題）を把握することが出来た。

今後の取り組みについて

令和6年度に把握した課題などを踏まえ、支援事業内容を一部拡充したモデル事業や調査物品の貸出等により、多様な主体による認定取得促進に取り組んでいく。